

平成29年度第2回 青年の家跡地等整備推進会議 会議録

日時：平成29年8月22日(火)
 午後1時30分～午後3時30分
 場所：富士見市役所分館3階会議室

出欠状況

座長					
新井(幸)	吉川	吉野	新井(利)	千種	斉木
○	○	○	○	○	○
佐藤	青木	大塚	水口	斉藤	
○	○	代) 上田	○	○	
事務局	政策企画課（課長・副課長・担当）、協働推進課長、まちづくり推進課長、交通・管理課長、南畑公民館長、(株)オリエンタルコンサルタンツ				

内 容
<p>1 開 会 ・鯉沼課長</p> <p>2 あいさつ ・島田部長 ・新井（幸）座長</p> <p>3 意見交換事項（※進行は座長） (1) 報告事項について ①岩村先生（アドバイザー）からの意見について ・河川や調節池における浚渫など定期的な維持管理の必要性、施設建設の際は周辺環境への調和を配慮、跡地一帯及び周辺の自然・歴史・景観を維持していくこと、将来を見据えた賑わい創出を考えること、の4点を事務局より報告 ②びん沼荘について ・今回の跡地活用の検討では、びん沼荘とは連携をしていく考えを事務局より報告 ③整備当時の葦原に対する整備の考え方 ・葦原となっている高水敷はびん沼川の常時水位と同等の高さであり、常時水がたまる構造とはなっていない旨、川越県土整備事務所より説明</p> <p>○質疑 参加者：高水敷は、設計時から水を張らない構造なのか。高水敷が、びん沼川の水位と同等の高さなら、もっと水が入ってくるのではないか。</p>

参加者：構想段階では水が溜まる計画もあった。現在水が上がりにくいのは、現在の水位と当初の想定水位に差異が生じているためだと考えられる。全体としては低めの部分が多いが、河川全体の取水量が大きいいため、見える形で水位は上がってきづらい。

参加者：自然ゾーンを掘ることはできるのか？また治水機能が低下しないか？

参加者：掘ることに法的問題はなく、治水機能は低下しない。期限や予算の制約もあり、跡地一体の整備を考えていく中で優先順位をつけて考えていきたい。掘るのなら河川環境や利活用の観点と併せて考えていくべき。

参加者：現在の葦原のままでは位置づけが疑問。掘ることについても、この会議の中でも考えを統一し、提案していくべき。

参加者：跡地は、水道や火が使える野外活動の場と、賑わいをつくる仕組みとして車での物産販売なども行える場としてはどうか。自然公園との境に安全対策を施したうえで、自然ゾーンは島の部分を残しながら葦等が生えぬよう掘り下げてほしい。前面道路は河川区域も含めて市道認定し、道路交通法上取り締まれるようにし、瓶沼橋のたもとを駐車場等としてはどうか。

座長：自然ゾーンは掘って水を溜めることで、子どもが遊べたり景観上向上させる意見が出されている。次回以降具体的に考えていければいいと思う。

(2) 整備素案について

1) 会議の開催スケジュールについて

- ・資料に基づき、事務局より説明

2) 整備コンセプト案について

- ・資料に基づき、オリエンタルコンサルタンツより説明

○質疑

参加者：「自然」や「地域資源」とは何かを共有・整理してから、整備方針について議論すべき。跡地一帯は景観だけではなく、生物の多様性に優れた場所であり、地域資源と言える。また「農」も地域資源になると思う。

参加者：市内にある斜面林が減少している現状から、この自然がある一帯を学習・教育の場として、キャンプ場などではできるのではないか。

参加者：子どもたちのための活用として、自然を感じ学べる場となればいい。

参加者：人が集うことがポイントだと思う。20～40代は魅力あるものがないと足を運ばない。全てのイメージを融合できればいいが、自然や周辺住民の方との関係もあると思う。上富で行われたマルシェの事例もある。平日は市民向け、休日は市外の方々向けとターゲットを分けてもいいと思う。

参加者：びん沼荘を解体する時期が来たときも想定し、将来像を含めてこの水辺空間をどう活かすかを考えるべき。将来、複合施設なりを検討する際に、環境学習の場を取り入れるなどしてはどうか。

参加者：行政としては、交流人口の増加、稼ぐ視点から賑わいや就労環境の創出もし

ていきたい。この地域の方向性を共有し、整備方針を定めればいい。

参加者：「見る、食べる、遊ぶ」の3点はポイントになる。あの場所だから遊べる、あの場だから行こうとなるものができればいい。

参加者：自然ゾーンを掘ることは地元のご意見次第の部分もあるが、事業期間や総予算の枠内で判断しなければいけない。このプロジェクトの重点は水辺の利活用。整備してどう利用するかを整理・検討されないと投資しづらい。

参加者：びん沼川沿いは安全に立ち入れないエリアもあり、今の釣り客だけでなく、子どもたちが安全に釣りが出来る場を整備してもいいと思う。

参加者：緩衝帯などにより親水性と安全性を両立させている事例もある。

参加者：親水性を持たせた水辺空間の整備はできる。利活用と維持管理は、行政と地域も含め考えていかなければいけない。

参加者：維持管理は市民だけでは限界がある。費用負担はどうなるのか？

参加者：自然ゾーンを掘った後の浚渫費用は今後協議だが、地域の維持管理費が増える整備は難しいのではないか。

参加者：水を入れれば葦が生えてこないという保証はできず、水があると管理が難しい。掘るならば、バランスや規模感を考えなければいけない。

参加者：今の葦原は管理がされているとは言えず、元々はなかったもの。地元にとっては良いとは言えない。

参加者：道路サポート制度のような制度は、河川ではないのか？

参加者：川の国応援団制度がある。

参加者：テーマで集客できればターゲットを絞らなくてもいい。施設を造るなら4つのイメージをクロスオーバーさせ、厨房機能以外は、様々に利用が出来るものではどうか。環境の点からは常設の環境学習の場があるといい。

参加者：環境学習は、セルフ学習でもいけるのではないか。

参加者：南畑では梨農家は減る一方で、主に収穫されるのは米である。農も厳しい現実があり、その点も考えて提案してほしい。

コンサル：今衰退してきているものを育てる・掘り起こす視点や全体のまちづくりの観点も必要。地域資源は農だけではなく、都市でありながらも整った美しい風景もある。農の環境を生かした商品開発なども一緒に考えていくべき。

参加者：じゃぶじゃぶ池はびん沼川の水を想定しているのか。

コンサル：びん沼川の水質を考え、水道水を想定している。

参加者：上流のさいたま市側から、船渡橋から砂塚橋あたりまで散策路とすれば、ある程度の距離となり、川辺と自然の景観も楽しめるのではないか。

参加者：南畑だけではなく、市全体や2市1町の魅力を集め、ここに来れば地域の良さが伝わるようになってほしい。また、サイクリストが立ち寄れる場やグランピングはあったほうがいいと思う。

参加者：管理運営に携わる人をセットで考えなければいけない。ボランティアだけでは難しい。

参加者：ハコモノ施設は造る考えでいいのか？

事務局：開発許可など精査は必要である。運営方法は民間活用も含め検討したい。

参加者：お金で制限してしまうと話が出てこない。予算も限りがあり、毎年多額の維持管理費がかかるのは現実的ではないが、今日はいろいろ案を出していただき、精査していく中で判断していきたい。

参加者：南畑で、体験農業をやることはどうなのか？

参加者：興味のある人もいるが兼業農家が多く、現実的に難しいと思う。

参加者：さいたま市側の桜並木を利用することを考えてはどうか。

参加者：何をするでも、PRが大事になってくる。

参加者：南畑だけでは難しいが、週一程度で市全体の農家が参加する軽トラ市をやれないか。最初は難しくても固定客ができれば評判になるのでは。

参加者：サンクチュアリや親水など、ゾーン分けをするべき。

コンサル：商売として成り立たせるような仕組みにすれば、費用的なハードルを下げているかなくても可能性が見えてくる。目指す方向は次回合意する必要がある。

参加者：4つのイメージは、全てこの地域に当てはまるということなのか、それとも4案の中でできるできないを区別して進めていく形なのか。

コンサル：今日提示した4つのイメージは、基本的にはどれもできない案とは思っていない。どれかの案をメインとし、他案の中で地域にあると良いものがあれば、付け加えていくのがいいと思う。市外の方々にも魅力を感じてもらえる空間になればいいのではないか。

参加者：河川でカヌーを行うことは法律的に可能なのか。また、釣り客とのトラブルがおきないように考えるべき。

参加者：カヌーなどを常時置くのは不可。河川は原則自由使用であるので、危険性がないと禁止ゾーンを設定することは難しい。

参加者：展望施設を造っている事例もある。カヌー遊びなども含め、いろいろ楽しめるものと自然を組み合わせるはどうか。

参加者：自然ゾーン内に水を入れて船を浮かべれば、稼げないか。

参加者：この地域も観光資源や物販施設も必要ではないか。それらだけでなく、体験型施設も考えていくべきではないか。

参加者：利用時間の想定はあるのか。

参加者：販売施設ならば閉店時間を設けるが、公園は閉園時間はないと思う。

(3) 次回会議の日程について

- ・平成29年9月25日（月）13時30分～、富士見市役所第1会議室

4 閉会

- ・鯉沼課長